

オプアウト用公開文書

研究名称

骨盤臓器脱の術式別の術後再発率の比較検討

1. 研究の対象

- ・2006年1月から2019年12月までの間に当院産婦人科において骨盤臓器脱で手術を受けられた302名

2. 研究目的・方法

骨盤臓器脱の手術療法の中で、近年腹腔鏡下仙骨腔固定術が当院で盛んに行われております。ただ、従来行っていた手術方法（マンチェスター手術、腔閉鎖術、腔式子宮全摘術+前後腔壁形成術）もあり、どちらが優れているかという疑問に対して、各々を比較してみないとどちらが優れているとは言えません。腹腔鏡下仙骨腔固定術において、このような従来行っていた術式との検討は、まだ世界でも数少ないのが現状です。

そこで骨盤臓器脱の術式別の術後再発と手術成績を明らかにするため今回検討を行うことにしました。

【腹腔鏡下仙骨腔固定術】

腔壁と膀胱、腔壁と直腸の間にメッシュ（人工膜）を差し入れて、そのメッシュの端を引き上げて仙骨に縫い止める術式

【マンチェスター手術】

子宮を支えている靭帯を縫い縮めて固定する方法

【腔閉鎖術】

前後の腔壁を縫い合わせる方法。腔壁が腔の中や外に膨隆することを防ぎ、子宮が脱出しないように支える方法

【腔式子宮全摘術+前後腔壁形成術】

お腹を開けずに、腔の方から子宮を取り、その断端を骨盤の奥にある硬い靭帯に縫い付け、腔の前後の壁をある程度切って縫い縮める方法

3. 研究実施期間

2020年4月27日から5年間

4. 研究に用いる情報の種類

カルテより下記情報を取得します。

年齢、手術時間、出血量、術後在院日数、合併症発症率、再発の有無

本研究は本学単独研究であり、他機関への情報提供は行いません。また、情報の二次利用は行いません。

5. 研究に管理について責任を有する者の氏名または名称

〈研究責任者〉近畿大学病院産婦人科 松村 謙臣

〈研究分担者〉近畿大学病院産婦人科 小谷 泰史

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、患者様が特定できる情報（患者様氏名・カルテ番号）については削除され、匿名化されておりますが、あなたの情報を研究に利用する事を希望されない場合はお申し付け下されば情報利用する事を停止致します。情報利用を希望されなくても、あなたに不利益を被る事はありませんのでご安心下さい。

なお、本研究は近畿大学医学部倫理委員会の審査を受け、近畿大学医学部長の許可を受けて実施するものです。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

住所：大阪府大阪狭山市大野東 377-2

電話：072-366-0221 内線 3215

担当：近畿大学病院産婦人科 小谷泰史